B01 ベトナムのイエバエ科ハエ類 (3)

篠永 哲 (東京医科歯科大学医学部医動物学教室)

Muscidae of Viet Nam (3)

Satoshi SHINONAGA

演者は、これまでに2回にわたってベトナムのイエバエ科ハエ類のうちイエバエ亜科とトゲアシイエバエ亜科について報告した。今回は、マルハナバエ亜科とハナレメイバエ亜科 (Mydaeinae and Coenosiinae) について報告する。

マルハナバエ亜科ではマキバイエバエ属 (*Myiospila*) のハエが6新種を含む9種見いだされた。ハナレメイバエ亜科では、ミズギワイエバエ属 (*Limnophora*) 9種 (1新種)、オオミズギワイエバエ属 (*Heliographa*) 2種、カトリバエ属 (*Lispe*) 3種、セマダライエバエ属 (*Graphomyia*) 1種の計15種が見いだされた。

これまでの調査から、ベトナムのイエバエ類は、熱帯アジア全域に分布している種の他に、ネパールなどヒマラヤ山系に分布する種と中国の雲南地方に生息する種などがあり、地域的にも北ベトナムのハエ相が複雑な様相をみせていることが判明した。

B02 ガイマイゴミムシダマシのイエバエ捕食性の評価

富岡康浩・吉垣 茂 (イカリ消毒 新技術開発部)

Estimation on predation of the lesser mealworm on the housefly

Tomioka Y. and Yoshigaki S.

鶏舎から発生するイエバエは殺虫剤抵抗性の発達が著しく、天敵昆虫を利用した総合防除システムの確立が切望されている。直径9cmのシャーレに放したガイマイゴミムシダマシ (以下ガイマイと略記) の幼虫5頭に対し、イエバエの各発育ステージの幼虫をいろいろな密度で与え、30℃下、24時間後の捕食数を計測した。ホリングのモデル式 $n = a \times t / (1 + a \times h \times X)$ に高い相関を示し、最大捕食数等を評価した。また10～35℃の各温度条件下で、1日当たりのハエ捕食数を調べた。その結果、特にハエの若齢幼虫を良く捕食し、捕食行動は13℃以上から見られ、温度の上昇に伴って捕食数が増加した。次に鶏糞単独および鶏糞にイエバエ幼虫を加えた餌条件でガイマイ新成虫100頭を52日間飼育し、生存数を比較した。鶏糞のみでは生存率49%であったが、ハエ幼虫も与えた場合は74%となった。その後9日間の累積産卵数は、鶏糞のみでは26.6個/雌であったが、ハエ幼虫も与えたものは産卵数が約2倍に増加した。